

想
い
に
な
っ
て

「戦争は怖い。今に生まれたことを
幸せに思います」と児童は感想を



▲総合学習で訪れた柿小学校6年生27人に、自らの空襲体験と平和の大切さを語る、運営ボランティアの石澤郁子さん（9月13日）

戦争の恐ろしさ、平和の大切さは、
確実に次世代へと
受け継がれています。

形
に
な
っ
て



見聞きた「悲しみ」「平和の尊さ」
「自分たちが伝えなければ」と劇で

8月1日、南中学校3年生
が演劇「平和の心を未来へ
伝える」を上演。空襲体験
者など多くの人が感動

長岡戦災資料館
開館時間＝午前9時～午後6時
休館日＝毎週月曜日（祝日の場合は翌日）、
12月30日～1月2日 ※7月中旬～8月は無休
入館料＝無料 ※駐車場はありません
所在地＝城内町2丁目6番地17 森山ビル
☎36・3269 FAX36・3335



命の続く限り、希望
を持って話を続けて
いきます。

戦災資料館運営ボランティア
金子登美さん
お父さんとお姉さんの遺影とともに

空襲のとき、私は小学6年生。父と姉を亡くしました。しばらく空襲の話は嫌でしませんでした。50年経って「このままでいたらあの時亡くなった人たちが忘れられてしまう」とハッと気が付いたんです。

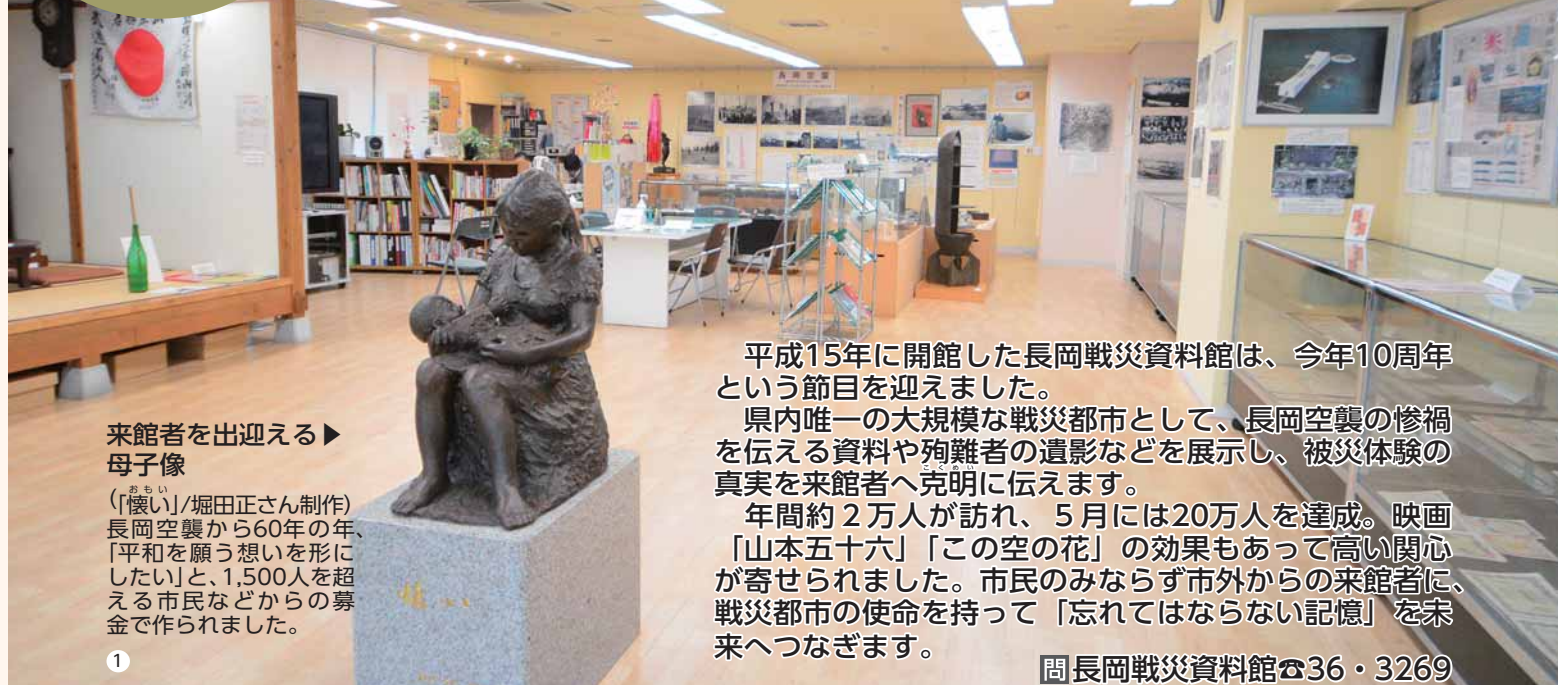
それからお願いされると話をするようになりました。最初はつらくて言葉が詰まりましたね。話を子どもたちはそのころの自分と同じ年くらい。最初は理解してくれるか不安でしたが、子どもたちなりの感覚でちゃんと捉えてくれるんです。手紙をいただいたり、平和劇を見たりすると本当に話して良かったと思います。

平和な時代が68年続いています。もちろん良いことだけ慣れ過ぎるとあの戦争の時代を忘れてしまう。平和が敵にならないように体験を繰り返し伝えたい。事実を話して、そのまま子どもたちに受け止めてもらいたいです。

私が体験を語る時最後に話すのは「50人の子どもたちに話をし、みんなが憶えてくれれば、あの夜亡くなった人たちの魂が50人の心の中に少しずつ残って生きてことになる」と信じている。10年前に話をした子どもたちが20歳になりました。命の続く限り、無駄ではないと希望を持って話を続けていきます。

長岡戦災資料館
開館から
10年

語り継ぐ。 長岡空襲の真実と平和への想い



来館者を出迎える▶
母子像
（「懐い」/堀田正さん制作）
長岡空襲から60年の年
「平和を願う想いを形に
したい」と、1,500人を超
える市民などからの募
金で作られました。

平成15年に開館した長岡戦災資料館は、今年10周年という節目を迎えました。県内唯一の大規模な戦災都市として、長岡空襲の惨禍を伝える資料や殉難者の遺影などを展示し、被災体験の真実を来館者へ克明に伝えます。

年間約2万人が訪れ、5月には20万人を達成。映画「山本五十六」「この空の花」の効果もあって高い関心が寄せられました。市民のみならず市外からの来館者に、戦災都市の使命を持って「忘れてはならない記憶」を未来へつなぎます。

☎長岡戦災資料館 ☎36・3269

昭和20年8月1日午後9時6分、長岡の夜空に警戒警報のサイレンが鳴り響きました。そして10時30分、B29が焼夷弾爆撃を開始。長岡は瞬く間に炎に包まれました。2日午前0時10分まで続いた空襲は市街地の8割を焼け野原にし、現在分かっているだけでも1,484人の命を奪いました。

戦災資料館は、空襲による悲劇と平和の尊さを次の世代に伝えるため、平成15年に市民のみなさんと市が一緒になって作った施設です。

後世に「伝える」ために大きな力となっているのが運営ボランティアのみなさん。開館から、展示資料の案内や整理、資料館や学校での語り部などで施設の運営を支えています。空襲体験者は「事実をきちんと伝えなければならぬ」とつらい気持ち乗り越えて、今、私たちに語り続けています。

空襲の記憶を忘れないために、次の世代に平和の尊さを伝えるために、これから先も語り継いでいきます。

10周年を記念して

記念誌「語りつぐ長岡空襲」発行
11月から販売予定です。
¥1,500円 販売場所・☎長岡戦災資料館

特別講演会

「米軍資料から見た長岡空襲」
時10月20日(日)午後3時30分～5時30分 場アオーレ長岡 講工学博士・工藤洋三さん 定200人(先着) 申庶務課 ☎39・2203

長岡空襲体験談保存プロジェクト

～語り継ぐ「8月1日」～
戦災殉難者遺族の新井淳夫さん、金子登美さんが体験を語ります。
時10月20日(日)午前10時～11時30分 場アオーレ長岡 対小・中学生 定100人(先着) ☎長岡青年会議所 ☎34・0069



25年5月29日	24年5月12日	23年8月	22年10月	21年7月	20年3月	18年8月	17年7月	16年5月	平成15年7月12日
入館者20万人達成写真④	南中学校の平和学習に協力 運営ボランティアらが招待	映画「この空の花」を撮影 写真③	ハワイアリゾナ記念館関係 者が来館(平和交流の寄贈 品を翌年から展示)	長岡空襲殉難者追慕の集い を初開催	戦災住宅焼失地図作り開始 現在地・城内町に移転	長岡空襲体験画展を初開催 像を設置写真①	「模擬原子爆弾投下地点跡地の碑」を市民の募金で建立 市民の募金で制作した母子 像を設置写真②	戦災前住家地図の修正作業 開始	大手通2丁目開館写真② 長岡空襲体験座談会初開催



入館者20万人目は、平和学習で訪れた青葉台中学校2年生79人



ホノルルの市長は空襲で「私たちが理失つたものをお互いに理解したい」と話しました

多くの市民の想いを預かる施設 次世代に事実を伝えることが役割

戦災資料館 運営ボランティア会 会長
桜井 修さん



長岡空襲の記録を残すため、焼けた市街地の地図を作り始めたことが資料館に関わったきっかけです。この施設は市と市民が一緒になって作り上げてきました。これから先も施設は「生きて」いくと思います。

長岡は戦災への想いがいっぱいあります。つらい経験を繰り返さないためには次の世代に事実を伝えることがとても大切なこと。施設ができて正確に記録を残すことができました。正しく知って、考えて、判断してもらいたい。心に残るものが将来大切に生きると思います。それがこの施設の役割です。

ボランティアは「伝えなければいけない」という一心で一生懸命活動しています。展示も手作りで工夫したりと熱が入ります。戦災資料館はたくさんの市民の想いを預かっています。資料館の意義を受け継いでいくためには、ボランティアの力が必要。若い人からもぜひ参加してほしいですね。